

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年10月号



【日高振興局】由良町農業士会、ゆらっ子農業塾が町内児童に「ゆら早生」を配布 (10月19日)

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-3
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～農地巡回調査を実施～ ～「匠の技 伝道師」による第2回研修会を開催～ ～下津町農業士会が下津第二中学校で「下津みかん出前授業」を開催～	
2. 和海地方農村青年交流会を開催 ～極甘みかん収穫体験と地元カフェでおしゃべり交流会～	
3. 小学生を対象に稲刈り体験学習を実施	
II 那賀振興局	4-5
1. クビアカツヤカミキリ被害状況を調査	
2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
III 伊都振興局	6-7
1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】 ～小学校で柿の渋抜き体験を実施～	
2. クビアカツヤカミキリの被害状況と秋の巡回調査の実施	
IV 有田振興局	8
1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査	
2. 御霊小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！	
V 日高振興局	9-10
1. スターチステんぐ巢病発生対策	
2. 由良町農業士会、ゆらっ子農業塾が町内児童に「ゆら早生」を配布	
VI 西牟婁振興局	11-13
1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】 ～ウメの受粉品種「星秀」の高接ぎを実施～	
2. ナバナの連続収穫現地実証試験の実施	
3. 白浜町遊休農地対策組織等検討協議会が先進地研修を実施	
VII 東牟婁振興局	14
1. 古座川果樹研究会がゆず栽培検討会を開催	
2. 古座川果樹研究会がウメ剪定講習会を開催	

Ⅷ 就農支援センター

15-16

1. 新規就農セミナー
2. 特別講義「落葉果樹の整枝・せん定」
3. 特別講義「梅干しの加工（味付け梅）」

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～農地巡回調査を実施～

農業水産振興課では、今年度から重点プロジェクト活動として、下津地区における守るべき農地の明確化と担い手への農地流動化に取り組んでいる。

10月5日、7日に海南市農地利用最適推進委員及び関係機関（JAながみね、和歌山県農業公社、農業水産振興課）職員でモデル地区に選定した下津町丸田地区、丁地区内の柑橘園地を巡回し、耕作状況の目視や生産者への聞き取りによる調査を行った。その結果、幹線道路や農道沿いで日当たりの良い園地では耕作されている率が高く、日当たりが悪い北向きの急傾斜園地や道路からの進入路がない園地では荒廃園地が多く見られた。

今後は、関係機関と連携して、今回の調査結果を基に守るべき農地マップを作成するとともに、生産者に対して農地貸借意向調査を実施し、担い手への農地流動化を図っていきたいと考えている。



現地調査

～「匠の技 伝道師」による第2回研修会を開催～

10月21日に海南市下津町内にある温州みかん園及び橋詰孝氏（匠の技 伝道師）の園地において第2回研修会を開催した。当日は温州みかんを栽培している新規就農者やわかやま農業MBA塾修了生、農業士等18名の参加があった。はじめに橋詰氏から今年産温州みかん生育概況と今後の作業のポイントについて説明があった。続いて、隔年結果対策技術である「予備枝」の設定について実演があり、参加者も設定作業を体験した。その後、橋詰氏の園地において、無摘果で品質向上を図るため枝吊りしている樹の状態やかん水施設（スプリンクラー）を見学した。

最後には、予備枝設定の時期や肥料の種類及び施肥時期、枝吊りの効果等について熱心な質疑応答がなされ、参加者にとって大変有意義な研修会となった。

次回（第3回）は令和4年2月25日に温州みかんの剪定について研修会を開催する。



実演



質疑応答

～下津町農業士会が下津第二中学校で「下津みかん出前授業」を開催～

10月26日、下津町農業士会（会長：川端宏幸氏）は下津みかん産地の将来を担う子供達に下津みかん産地の現状や課題、農業の魅力等を学んでもらうことを目的に、昨年引き続き海南市立下津第二中学校2年生（57名）を対象に「下津みかん出前授業」を開催した。はじめに農業水産振興課の川村、嶋田普及指導員から下津みかん及び「日本農業遺産（下津蔵出しみかんシステム）」について説明し、続いて農業士会員4名からみかん栽培の魅力や農業を仕事にした理由等について話した後、会員が持参した極早生みかん「ゆら早生」を試食した。その後、生徒達は12グループに分かれ、①みかんの消費拡大、②農業を仕事にする条件をテーマに討議を行い、最後に意見をまとめグループごとに発表した。発表では「SNSを活用して若年層に下津みかんをPR」、「みかんの良さを伝えるポスターや動画を作成」、「農業を仕事にするには安定した収入と休暇が必要」、など産地の活性化につながるような意見が多数あり、農業士会員と中学生双方にとって、地域の特産である下津みかんについて深く考える大変良い機会となった。

下津町農業士会は、後継者不足に対して大きな危機感を持っており、地元の子供達に農業の魅力を早い時期からよく知ってもらうことで少しでも後継者の確保につながればとの思いがある。

当課では、今後も下津町農業士会が行う下津町内の小中学校での「下津みかん出前授業」を支援していく。



授業



意見発表

2. 和歌山地方農村青年交流会を開催

～極甘みかん収穫体験と地元カフェでおしゃべり交流会～

10月31日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（会長：吉見将人氏）及び海南市4Hクラブ連合会（会長：大谷龍児氏）主催で和歌山地方農村青年交流会が開催され、県内各地から女性8名、クラブ員男性6名が参加した。

この交流会は、地域の農産物、伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力、農業・農村生活に対する理解、関心を深めることを目的として毎年開催している。

海南市下津町のカフェ「KAMOGO」でトーク会を行い、交流を深めた後、みかん園地で完熟ゆら早生の収穫体験を行った。収穫体験では、クラブ員からみかんの採り方、剥き方や、おいしいみかんの特徴などを説明した。収穫に加え、最も甘いと思うみかんを選ぶ「糖度ゲー

ム」も行った。参加者は、収穫体験やゲームを通して交流を楽しんだ。

参加者からは「農業についての話を聞くことができた」、「みかんについての知識が増えて勉強になった」などの感想が寄せられた。

当課では、今後も両協議会の活動を支援しながら、農業者と消費者の交流の場を作っていきたいと考えている。



KAMOGO でのトーク会



みかん園地での収穫体験

3. 小学生を対象に稲刈り体験学習を実施

農業水産振興課では、小学生等を対象に、農業や食物への関心を持ち、大切さを感じてもらうため、体験学習等の指導に取り組んでいる。

10月18日に和歌山市梅原の貴志正幸氏の圃場において、和歌山大学教育学部附属小学校5年生96名を対象に稲刈り体験学習を実施した。

稲刈り体験では、貴志氏から稲の刈り方や稲束の結び方などについて説明を受けた後、児童を3人1組のグループに分け、刈り取り作業を行った。児童たちは、刈り取った後の稲束を紐で結ぶ作業に苦労していたが、作業を続けるうちに要領をつかみ、楽しみながら作業をしていた。また、刈り取った稲束を乾燥させるための、「はさがけ」作業の体験も行った。

当課では、今後も小学校を対象とした農業教育の支援を行っていく。



貴志氏から説明

Ⅱ 那賀振興局

1. クビアカツヤカミキリ被害状況を調査

10月19日、21日に那賀地方病害虫防除対策協議会（会長：下田和敬二氏、紀の川市、岩出市、JA振興センター、JA、共済、病害虫防除所、県試験場、振興局で構成）主催でモモやスモモ、ウメ栽培ほ場の巡回調査を実施した。

協議会構成員のべ26名が管内201園、モモ2671本、スモモ326本、ウメ417本のクビアカツヤカミキリによる被害を調査した結果、岩出市のモモ1本でフラスが確認された。

本年度、岩出市内ではウメやモモでの被害が確認されているが、いずれも早期発見、早期伐採を行い、被害の拡大は抑えられている。

今後も、定期的な巡回調査や発生園周辺の悉皆調査を行い、早期発見に努めると共に、一般家庭へのクビアカツヤカミキリ啓発を行い、家庭菜園や庭木として植栽されているバラ科果樹についても被害確認を行っていく予定である。



巡回調査の様子

2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

10月21日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会（会長：坂口富子氏）では県植物公園緑化センターにてリーダー研修会を開催し、各市のグループリーダーと市県担当者21名が出席した。

研修会に先立ち、役員会でテーマを協議したところ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外出しづらい日々が続いていることから、参加者に少しでも開放感のあるリラックスした時間を過ごしてもらいたいという意見があり、今年度は寄せ植え体験を実施することとなった。

研修会では、まず講師から「実際に植える前に、一度机の上で配置を考えて並べてみる」、「根を崩すと必ず植え痛みが起こるので、ポット全体に根が回っている場合以外は、そのまま植えるほうが良い」、「植物は段々と外側に広がってくるので、できるだけ中心に寄せる感じに植える」といった説明を受けたのち、参加者はそれぞれの寄せ植えに挑戦した。

途中参加者は、寄せ植えに使用したハーブのにおいを確認したり、ハーブの使い方を会員同士で教えあったりしながら、作品を完成させた。

参加した会員からは「家でも寄せ植えをするが、今回はポイントを分かりやすく教えてもらいながら体験できたのが良かった」、「久しぶりにみんなと会えて楽しかった」、「生活の中にハーブを取り入れていきたい」といった声が聞かれた。

農業水産振興課では、今後も各種研修会を通じて協議会活動を支援していく。



寄せ植え体験の様子

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【新品種導入と担い手の育成による柿産地の活性化】

～小学校で柿の渋抜き体験を実施～

伊都地方農業振興協議会（市町、J A、農業共済、振興局で構成）は、地域農業への理解を深めるとともに、伊都地方特産の柿の美味しさを知ることにより地産地消の推進を図るため、平成13年度から小学生を対象に柿の体験学習を行っている。本年度で20年目となり、令和2年度までに訪れた小学校は、のべ395校（対象児童数：20,659人）である。

10月は柿のお話と柿の渋抜き体験を、管内及び和歌山市、守口市の9校の小学校において、548名の児童を対象に実施した。

柿のお話しでは、和歌山県が日本一の柿産地であることや、柿農家の作業、加工・流通等について、クイズも交えて説明した。

また、柿の渋抜き体験では、渋柿のヘタを焼酎に浸けてから袋に入れ、密閉することで脱渋処理を行い、処理後5～7日後に渋かった柿がおいしく甘い柿に変わることを説明した。

11月からは、実施メニューを柿のお話しと吊るし柿体験に変更し、引き続き実施していく予定である。

コロナ対策の一環で体験時間を短縮して実施しているが、農業水産振興課ではこのような時期だからこそ、家庭の食事で和歌山の特産品である柿に親んでもらい、食育や消費拡大へ繋げていきたいと考えている。



柿のおはなし



渋柿の渋抜き体験

2. クビアカツヤカミキリの被害状況と秋の巡回調査の実施

かつらぎ町や橋本市では、スモモ・モモ・ウメなどの樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害樹が増加している。2019年11月に、かつらぎ町で県内初の被害樹を確認して以来、周辺地域を中心に早期発見のため巡回調査を実施している。2021年7月20日までの被害樹累積は、かつらぎ町では、スモモ26地点179本、モモ31地点105本、ウメ10地点27本であった。また、橋本市では、スモモ8地点20本、モモ7地点9本、ウメ5地点7本であった。その後も被害樹が確認されており、本年の成虫発生は5月下旬

から8月上旬まで確認した。そこで、この度10月18日から10月29日の5日間、JA紀北かわかみ・橋本市・かつらぎ町・農業共済・JAグループ農業振興センター・県の関係機関などの共同により、のべ約200人の参加者で既発生園の地域周辺を中心として、かつらぎ町で約1190地点、橋本市で約320地点の巡回調査を行った。

今回の調査で、新たな地点や既発生園での新規被害樹が確認され、今後も引き続き、被害拡大防止のため速やかな防除対策への取り組み推進や早期発見のための啓発を行う。



調査前の実施要領説明（10月22日）



スモモ園の調査風景（10月27日）

IV 有田振興局

1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査

モモ・ウメ・スモモなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ（以下、クビアカ）」は県北部で被害が確認されている。このクビアカが県中部の有田地域に侵入していないか、JAありだと共同で9月29日から10月6日の間の3日間、参加者のべ9人で巡回調査を行った。調査は10園地、スモモ147樹、モモ38樹、ウメ73樹で行った。今回の調査では被害は確認されなかった。調査後に啓発チラシを配って生産者のクビアカに対する意識を高めた。



巡回調査の様子

2. 御霊小学校でみかんの出前授業（収穫体験）を開催！

有田川町立御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合的な学習の授業で温州みかんの学習を行っている。

10月6日、御霊小学校3年生（52名）を対象に、有田川町青年農業士で、園主の玉置泰伸氏と農業水産振興課職員指導のもと収穫体験を行った。収穫後は、糖度や栄養成分についても説明し、児童からは柑橘類の種類や収穫のポイント、糖度や酸度のバランスなど様々な質問が飛び交った。最後は全員で有田むきに挑戦してみかんの試食を行った。摘果、収穫体験と1年を通じて学習したことで、みかんづくりの苦労や収穫の喜びを子供達に体験してもらうことが出来た。

今後も当課では農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



玉置氏による収穫方法の説明



収穫体験

V 日高振興局

1. スターチステんぐ巢病発生対策

スターチステんぐ巢病は、花器の葉化や株の萎縮・叢生症状を示し、ヒメフタテンヨコバイ (Macros striifrons Anufriev) が媒介するファイトプラズマによって引き起こされる。本病は発病すると回復は見込めず、また、発病株が二次感染源となるため、早めに対策を実施しなければ大きな減収となることがある。

昨年、管内の複数園地において本病が多発し、園地によっては全体の6~8割以上の株に発病(5月頃)がみられたため、振興局ではJ A紀州、暖地園芸センター、農業試験場と連携し、被害状況把握と原因の究明のため調査を実施している。

本年は、ヒメフタテンヨコバイのファイトプラズマ保毒状況を確認するため、昨年多発した園地周辺において、粘着トラップの設置およびすくい取り調査を行った。

その結果、粘着トラップに1頭が捕獲され、ファイトプラズマ検定において陽性となったことから、管内園地周辺にはファイトプラズマを保毒するヒメフタテンヨコバイが生息している可能性が高いと考えられた。

11月現在、管内園地において1圃場内で1~2株の発生となっており、昨年のような激発状況ではないが、引き続き、関係機関と連携し、保毒虫・保毒雑草の調査と発生状況の聞き取り調査、チラシ等による注意喚起を続けていく。



すくい取り調査の風景と
ヒメフタテンヨコバイ(右上)

**スターチステんぐ巢病
の発生が確認されています**

【代表的な病徴】

 「萎縮症状」 草丈の伸長が抑えられる	 「叢生症状」 枝分かれが異常に増加する	 「葉化」 花・ガクが葉になる
---	---	--

※疑わしい症状あれば宮農指導員や普及員へお知らせください!

【発病原因】

- 病原体：ファイトプラズマ(植物病原細菌)
- 媒介昆虫(ヒメフタテンヨコバイ)が植物の樹液を吸うことにより病原体が伝播される

ヒメフタテンヨコバイ
(*Macrostelus striifrons Anufriev*)

- 成虫の体長は、約3~5mm
- 頭部に2つの点と細い黒帯がある
- 翅は透明、頭部は白色からやや黄色い
- 多種の植物(雑草・作物)を吸汁する

【対策】

- 発病株を早期に抜き取り、焼却するか地中に埋める
- ネオニコチノイド系薬剤(アルバリン、モスピラン等)によるアブラムシ等の同時防除が可能
- 防虫ネットを張り、侵入を予防する

日高野菜花き技術者協議会

啓発用チラシ

2. 由良町農業士会、ゆらっ子農業塾が町内児童に「ゆら早生」を配布

10月19日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）とゆらっ子農業塾（塾長：中谷明博氏）が、町内の小中学校とこども園を訪れ、「ゆら早生」を配布する食育活動を行った。

本活動は、町内の園児及び小・中学生に町内で発見された良食味な極早生みかん「ゆら早生」を食べてもらうことにより、町内発祥の特産品への理解と親しみを深め、地産地消の大切さを学ぶことを目的に、平成25年から実施している。

今回は、「ゆら早生」の果実に加え、町内発祥である本品種についてより深く知ってもらうために紹介チラシを新たに作成し、併せて配布した。

由良町立衣奈小学校、白崎小学校には濱野一宏会長と中谷明博塾長が、由良小学校、由良中学校及びゆらこども園には数見隆一郎副会長及び山口貴生氏が訪問し、児童らに贈呈した。

濱野会長は、『「ゆら早生」は、由良町三尾川の山口寛二さんによって発見された、みかんの中でも最も早い時期に収穫できる品種です。見た目は青いですが、糖度がとても高いため、食べた時の味のインパクトが大きく、全国的に人気のある品種となりました。果実の下側に「しわ」が入っているみかんは「菊みかん」と呼ばれ、特に甘くて美味しいと言われているので、よく観察しながら味わってください』と説明した。

児童らは、「毎年立派なみかんを届けていただいて、とても嬉しいです。みんなで分けて美味しく頂きます」と笑顔で謝辞を述べた。



衣奈小学校で「ゆら早生」の贈呈を行う濱野会長(手前)と中谷塾長(奥)



新たに作成し配布した紹介チラシ

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】

～ウメの受粉品種「星秀」の高接ぎを実施～

西牟婁地域の基幹作物であるウメ「南高」は、暖冬や開花期の天候不順により受粉がうまく行われず、年により作柄が大きく変動するため、生産量や取引価格は不安定となっている。

そこで、農業水産振興課では「南高」の生産安定を図るため、うめ研究所が育成した自家和合性（自分の花粉で結実できる）品種「星秀」（「南高」と「剣先」の交雑種、2019年6月に品種登録出願公表）を受粉樹として現地に導入しようと高接ぎによる展示ほを設置している。

うめ研究所の成果では、「星秀」の開花期は「南高」とほぼ同時期であり、同じ交雑種で既に導入が進んでいる「NK14」より果実が大きくなることから優良な受粉樹として生産者らは期待している。

10月1日、7日に田辺市内4カ所、上富田町内5カ所の「南高」園地において、前田普及指導員、木村技師及びJA紀南営農指導員8名が生産者の協力を得て高接ぎを行った。まず、「星秀」の特徴や新品種の取り扱い上の注意事項などを前田普及指導員から説明し、参加者で手分けして「南高」の樹に高接ぎを行った。今春に高接ぎした園地を含め管内で10カ所の展示ほを設置しており、順調に生育すれば3年後には「星秀」の開花、結実した様子を地域の生産者が見学できるようになる。

当課では、今年度から3カ年の普及指導計画で、「南高」の受粉樹として有望な「星秀」を高接ぎや苗木の混植により導入推進し、「南高」の安定生産技術のひとつとして定着を図っていく。



ウメ新品種「星秀」の特徴を説明



高接ぎの方法を説明

2. ナバナの連続収穫現地実証試験の実施

西牟婁地域のナバナ栽培は、専用コンテナを使用して出荷するため作業が容易で収穫物も軽量であることから、白浜町を中心に栽培が増加傾向であり、ここ2年で1.5haから2.6ha

へ栽培面積が増加している。

ナバナ栽培では、県内の主要品種である「CR花かんざし」が、生産者から収量や品質面で高い評価を受けているものの、収穫時期が集中するため、次の収穫までに時間がかかり、安定した連続収穫技術が求められている。

農業水産振興課では、農業試験場の「業務用ナバナの連続収穫技術」の研究成果をもとに、今年度から生産者やJA紀南の営農指導員と共に生産者2名の圃場で現地実証試験を行っている。

10月7日、白浜町塩野の生産者と谷普及指導員、JA紀南の前田営農指導員で、同日播種でも収穫時期が分散し、連続収穫が可能な「CR花かんざし」と「CR華の舞」の2品種を200穴セルトレイに播種した。また直まき栽培での連続収穫の可能性についても検討するため、10月8日、白浜町田野井の生産者圃場において、上記2品種の播種を行った。

当課では、生産者やJAと連携し、随時、現地調査を行い、ナバナの連続収穫技術の確立に向け、現地検討を行っていく。



ナバナ播種作業（10月7日）



播種後の生育状況（10月27日）



直まき圃場の設置状況（10月27日）

3. 白浜町遊休農地対策組織等検討協議会が先進地研修を実施

白浜町遊休農地対策組織等検討協議会（会長：井潤誠氏）では、遊休農地解消を目的とした農業法人設立の可能性を検討しており、10月26日に農作業受託及び給食用白米の供給について検討を深めることを目的に公益社団法人香南市農業公社（高知県香南市）への先進地研修を実施し、構成団体代表や町職員ら8名、農業水産振興課の村畑普及指導員が参加した。

香南市農業公社は、基幹作物である稲作の維持と、農家の稲作に係る機械等への過剰投資の抑制、稲作にかかる労力を軽減することで施設園芸等に注力することを目的に、平成11年8月に設立され、農作業受託事業及び市内の小中学校、保育所などへの給食用白米の供給事業に取り組んでいる。

同公社の山元茂夫事務局長から、受託農業者の概要、収穫した米の乾燥や検査におけるJAとの連携、給食用米の供給状況等について説明を受けた。

参加者からは、「機械更新費用はどうしているのか」、「受託水田の獣害対策はどのように対応しているのか」等の質問があり、活発な情報交換が行われた。

当課では、白浜町における農業法人設立の検討に向けて、引き続き同協議会の活動を支援していく。



研修会



米の低温貯蔵庫

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 古座川果樹研究会がゆず栽培検討会を開催

10月18日、古座川果樹研究会（会長：新屋常夫氏）は、ゆず栽培技術の向上のため研究会会員のゆず園4カ所の生育状況を確認し、栽培方法や病虫害防除方法、今年の収量見込みについて話し合った。生産者4名、農業水産振興課1名が参加した。

施肥や土壌改良に力を入れている会員が多く、今年の収量は、平年に比べて多い予想である。ただし、一部の園では裏年に当たり、実がかなり少なかった。また、ウイルスやカンキツ幹腐病の発生が確認されたため、防除対策を検討した。当課浅井普及指導員から、ゆずの施肥と土壌改良について過去の土壌分析結果を基に説明した。

当課では今後もゆずの安定生産・高品質化を図るため、研究会の活動を支援していく。



ゆずの生育状況を確認



収穫直前のゆず園

2. 古座川果樹研究会がウメ剪定講習会を開催

10月20日、古座川果樹研究会（会長：新屋常夫氏）は、ウメ剪定技術の向上のため、研究会会員のウメ園4カ所で剪定講習会を開催し生産者4名、農業水産振興課1名が参加した。

はじめに、当課浅井普及指導員からウメの剪定の基本技術の説明とクビアカツヤカミキリの注意啓発を行い、その後、ウメの剪定講習を行った。各園地は、樹齢や栽培方法、獣害の有無等の条件が異なることから、状況に応じた剪定やそれぞれの園地に適した栽培方法、今年の収穫状況等の話し合いも交えながら行われた。

当課では今後もウメの新技术や安定生産・高品質化を図るため、研究会の活動を支援していく。



ウメの剪定方法の確認

Ⅷ 就農支援センター

1. 新規就農セミナー

10月13日、特別研修の第一弾として新規集就農セミナーを開催した。新規就農セミナーは、就農支援センターの研修生（社会人課程並びに技術修得研修）が先輩農業者の経験談を聴くことによって、就農に向けた心構えや準備の一助とすることを目的に毎年この時期に開いている。今回は、平成26年度社会人課程修了者2名を講師に招いた。

御坊市の三木里恵氏は、年老いていく両親を気遣って親元就農を決めた。仕事の傍らウイークエンド農業塾を受講し、退職後は社会人課程でみっちり農業の基礎を学んで就農した。当初は父親との農業の考え方のギャップに悩んだり、台風で栽培施設が半壊して再建を余儀なくされたりしたが、現在では施設のミニトマトと露地のナスなど数種の野菜を生産している。農業をやっていくには、視野を広げること、自分の力を過信せず、パートナーを大切にすることが大事だと語った。

有田市の津久井和佳氏は、東京での教員生活を早期退職して和歌山県へ移住し、現在、柑橘類1.3haを栽培している。Iターンのため、農地の確保や生産物の販売方法など全くゼロからの出発だったが、研修先の農家をはじめ周りの人々に助けられた。研修中の皆さんも自分のやりたい農業の実現に向けて誠意をもって行動してくださいとエールを送った。

聴講した研修生らは、先輩からの言葉を受け、自らの就農に向けた決意を新たにしていた。



先輩農業者から経験談を聞く
(三木里恵氏)



研修生へ激励のメッセージ
(津久井和佳氏)

2. 特別講義「落葉果樹の整枝・せん定」

10月14日、社会人課程および技術修得研修の研修生を対象に、午前は講義、午後はウメのせん定実習を行った。講義では、落葉果樹の基本的な用語やせん定の目的、イチジク、カキ、ブドウなどの結果習性、せん定方法について説明を行い、また午後から実習を行うウメのせん定について詳しく学んだ。

実習では、当センターウメ園において職員が説明をしながらせん定を行い、その後、3~4人のグループに分かれてせん定を行った。はじめに樹をよく観察をして主枝の本数や亜主枝

の配置を考え、株元まで太陽光が入り、枝が混み合わない事や若い枝を活用できる環境などに注意し、2～3年先を見据えた枝の設定を考えながらせん定した。

研修生からは、「せん定には思い切りが大事」、「全体的にすっきりして気持ちよかった」、「来年度以降の実のなり方を知りたい」との声が聞かれた。



ウメのせん定（講義）



ウメのせん定（就農支援センターほ場）

3. 特別講義「梅干しの加工（味付け梅）」

10月27日、指導農業士の橋坂佐都美氏、山添踊香氏（田辺市在住）、畑田京子氏を講師に招き、社会人課程および技術修得研修の研修生を対象に、ウメを使った加工実習を行った。当センターの研修で収穫した完熟梅を一次加工したものをを用いて、味付け梅、梅びしお、梅スポーツドリンクなどを作ったり、梅を使った料理の紹介や機能性などについて学んだ。研修生は、「普段の実習とは違う雰囲気新鮮だった」、「もっと気軽にウメの健康食品を作りたい」と話していた。



ウメの加工に関するレクチャー



ウメの加工

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489